

派遣事業を通して学んだ事

吉田中学校 齋藤 弘誠

私にとって今回の「中学生姉妹都市派遣事業」は、とても貴重な経験となりました。

派遣前は、自分の英語が相手に伝わるか、ホストファミリーと上手くコミュニケーションがとれるかとても不安でした。

初日は、富士吉田市を出発してバスの中で派遣団のみんなと話しているうちに緊張は徐々に消えていきました。成田国際空港に到着し、十時間という長い時間をかけて、私たちはコロラド州のデンバーへと向かいました。デンバー国際空港へ到着し、私はその大きさにとても驚きました。一日目と二日目は、ホテルに泊まりました。ホテル内には、プールやトレーニングジムなどが設備されており、派遣団のみんなと遊んで、さらに仲を深めることが出来ました。

三日目は、デンバーを離れ、コロラド・スプリングス市を目指して、出発しました。コロラド・スプリングス市に向かう最中は、広大な平地が広がり、アメリカにもこんな場所があるのかと思いました。コロラド・スプリングス市に到着すると、全ホストファミリーが出迎えて下さり、これからホームステイの生活が始まるのだという実感が湧いてきました。バスを降りると、私と、私と一緒にホームステイする和也君の名前が書かれたボードを持ったクイン君の姿が見えました。ホストファザーのジョーは、私が野球をしていることを知って、その日の夜に野球観戦に連れて行ってくれました。私たちがホームステイする家が慶人君と良君がホームステイする家の向かいだったことから、みんなで一緒に行動することが多くありました。野球観戦では、慶人君たちのホストファミリーのエヴァン君がポップコーンを買ってきてくれました。顔合わせのときは緊張していましたが、ホストファミリーが本当の家族のように優しく接してくれたおかげで、私の心の中で緊張は安心に変わっていきました。

四日目は、私たちが疲れていることを察してくれて午前中は、家でゆっくりとリラックスする時間にしてくれました。午後は、ポットラックで富士吉田市の紹介、そしてソーラン節を披露しました。踊り切った後に、大きな拍手をもらい、達成感を得ることができました。その後は、自分たちのホストファミリーはもちろん、違うホストファミリーの人たちとも触れ合うことができました。夜には、日本からのお土産をホストファミリーにプレゼントしました。ホストファザーのジョーは写真家だったためポストカードをあげたら、綺麗な写真だと言って喜んでくれました。ホストマザーのリンジーには髪留めをあげたら早速、とても気に入って次の日につけてくれていました。子供のクイン君には日本のお菓子や子供用の浴衣などをあげました。その中でも日本のおもちゃはすぐに開封し、楽しそうに遊んでくれたので嬉しかったです。

六日目は、ホストファミリーデーだったので、慶人君、良君たちと一緒にショッピングへ行きました。ホストファミリーは私たちの行きたいお店を最優先に連れて行ってくれました。夕食後、私たちはゴルフへ行きました。和也君がホールインワンを決めたりしてとても上手でした。合計スコアは一位が和也君で私は二位でした。久しぶりのゴルフでした。

が、時間を忘れてしまう程、楽しく過ごすことができました。

最終日、別れるのは寂しかったのですが、私は五日間お世話になったホストファミリーに感謝の気持ちを伝えて別れました。

私は今回の「中学生姉妹都市派遣事業」を通して、アメリカの文化や歴史だけではなく、人の温かさを学ぶことができました。この学んだ事を無駄にしないように、九日間の貴重な経験を富士吉田市の人々、日本の人々に発信していきたいです。

九日間本当にありがとうございました。